

英語の必要性に早く気づき、 研究の世界に踏み出そう。 GSCは、そのきっかけを提供します。

高校時代に「英語が苦手だから、理系を選んだ」という学生のみなさんも多いでしょう。しかし、科学は、世界共通。理系こそ、英語力が必要不可欠です。世界中の研究者に、自らの考えや研究内容を伝え、理解してもらうには、世界共通語の英語力が必須。先行研究を理解する上でも、日本語だけでは情報はゼロに近く、英語の論文を大量に読むことが必要です。さらに、研究者としてようやく一人前になるのは、英語で論文を執筆してからになります。

その英語の必要性に早い段階から気づいてもらうのが、グローバルサイエンス・コース(GSC)のひとつの狙いです。私たちの時代は、大学院生になって参加した国際学会や、留学した海外ではじめて英語の必要に迫られました。大学生の頃から生の英語に触れる機会はほぼなかったもので、現在の学生は非常に恵まれていると思います。英語を学ぶには、

英語がある環境に身を置くことが大切です。さらに、研究に役立つ英語を習得するためには、専門的な語彙力を身につけ、英語で書かれた論文を読み込み、自分の考えを文章や口答で正しく発信することを学ばなくてはなりません。このGSCプログラムは、一拠点キャンパスの強みを活かし、外国語教育に精通した外国語学部と連携し、効率的かつ効果的に実用的な英語を学ぶことができる魅力的な取り組みです。

授業や研究に忙しく、さらに英語まで勉強するには強い志が必要です。しかし、それを乗り越えたとき、英語だけではなく、自らの研究に対する情報量も圧倒的に増え、専門的知識への意欲もより一層高まるでしょう。チャレンジ精神旺盛な学生の受講を、そしてみなさんにとってこのプログラムが研究に一步踏み込むきっかけになることを期待しています。

総合生命科学部 教授
黒坂 光

心強い外国語学部の存在。 英語教育は、理系学生にも 大きな価値が。

数学が好きで教員志望でしたが、より深い数学のおもしろさに目覚めて大学院へ。英語は、博士前期課程2年の秋にオマーンの大学のインターンシップにただ1人の日本人として2カ月間参加し、ドイツ人やオランダ人などと共同生活をした時に、尻込みせずに休当たりで意思を伝える力を養いました。英語以外にも学ぶことの多い、すばらしい体験でした。学部生となってすぐに海外留学を経験できるGSCは、絶対におすすめです。

今後はドイツ・マックス・プランク研究所への留学も考えているため、外国語学部のTOEFL®の授業への参加を認めてもらい、勉強を進めています。本学は、国際舞台での活躍をめざす学生にとって、多くの支援が受けられる、とても恵まれた大学だと思います。

理学部数学科数専攻
博士前期課程2年
横山 賢治

専門用語を含めた 研究のための英語に加え、 英会話力の必要性も痛感。

インターネット上にあふれる有料アプリなどのコピープロテクトについて研究しています。昨年6月末、国際会議に初参加。ハワイで研究を発表することができました。

ソフトウェアの研究には専門用語も含めた英語が不可欠です。学会では他国の研究者との交流の機会もあり、英会話力の必要性も痛感。研究が忙しくてなかなか時間がつかれませんが、英語力を磨きたいと思っています。

GSCでは、研究と英語学習が無理なく両立できる、実によく考えられたカリキュラムが組まれています。サマーキャンプや留学は一見敷居が高そうですが、最初は完璧でなくても挑戦すればよいのだと聞きました。自分もできることなら、このプログラムを受講したいくらいです。

先端情報科学研究科
先端情報学専攻
博士前期課程2年
福田 収真

勉強しただけスキルアップし、 研究者としての 可能性を広げる英語力。

英語の論文は日常的に読むことが多いのですが、英語で話したり、話を聞いたりする機会は意外に少ないもの。しかし学会に参加すると、海外の研究者と意見交換をすることも多く、リスニングとスピーキングは必要不可欠です。その点、GSCは英語を実際に話す機会が多いところが良いと思います。今後は、プレゼンテーションのための英語力をつけるとともに、研究論文でインパクトのある文章が書けるように、さらに英語の表現力を磨きたいと思っています。

英語は勉強すれば勉強した分だけ、スキルがアップします。私も、実験の待ち時間などの隙間時間を活用して毎日勉強しています。卒業後の目標は、グローバルな企業で研究員として活躍すること。培った英語力は、将来の可能性も広げてくれるはずです。

生命科学部数専攻
生命科学専攻
修士課程1年
天野 瑠美

グローバル社会で活躍する理系産業人を育成。

理学部/コンピュータ理工学部/総合生命科学部

GLOBAL SCIENCE COURSE

グローバル・サイエンス・コース

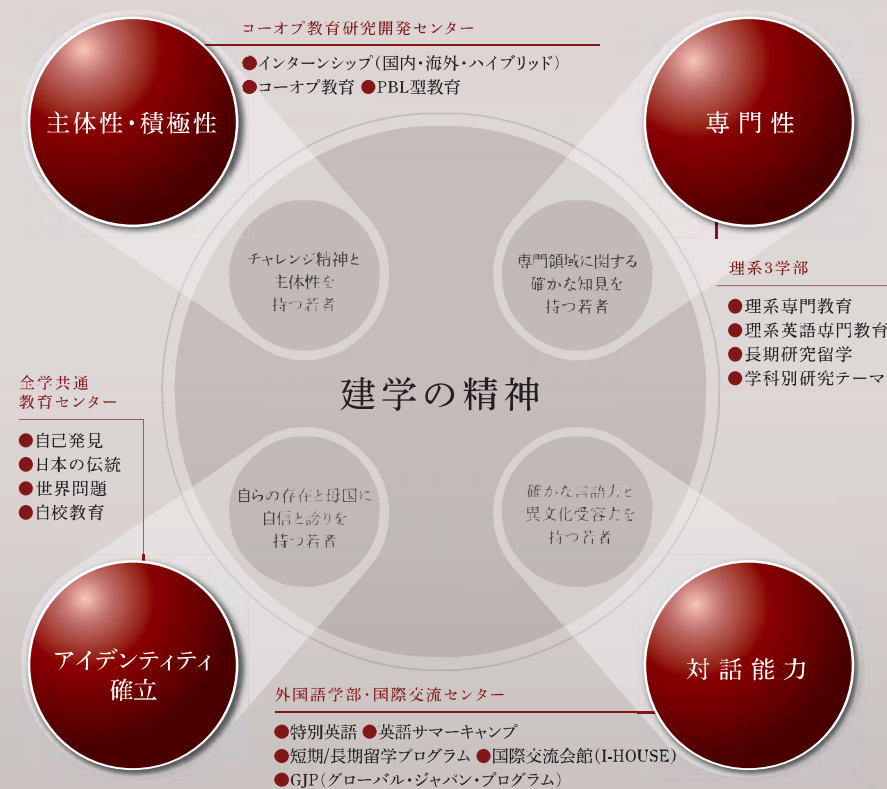
理系こそ、英語。 世界で勝負が求められています。

国際的な競争の激しい科学技術分野においては、研究者だけでなく、エンジニアや専門職として活躍する場合も、英語での対話能力が求められます。理工系の学生にとって、今や英語力は、専門知識とともに必要不可欠な能力となっているのです。

2014年度スタート グローバル・サイエンス・コース

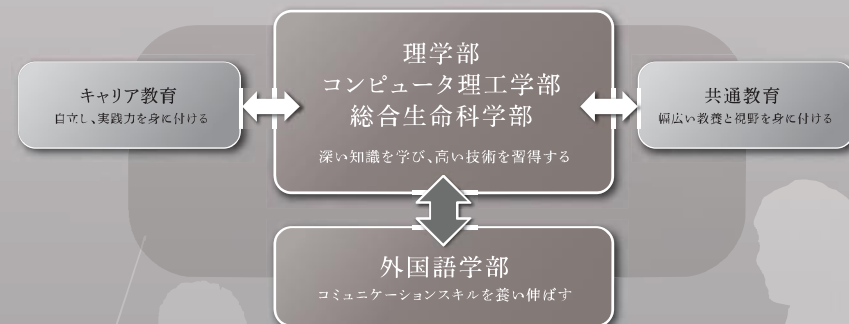
専門領域における自分の考えを、英語で発表し討論する力を磨く。

京都産業大学の理系3学部では、2014年度より「グローバル・サイエンス・コース（GSC）」を新たに設置し、英語を武器に世界に挑むことのできる理系産業人を育成するカリキュラムをスタートしました。専門領域の学びを英語で理解し、論文・発表・会話を通じて自分の考えや研究成果を英語で伝えることが目標です。



外国語学部とのコラボレーションによる、これまでにない新しい英語プログラム。

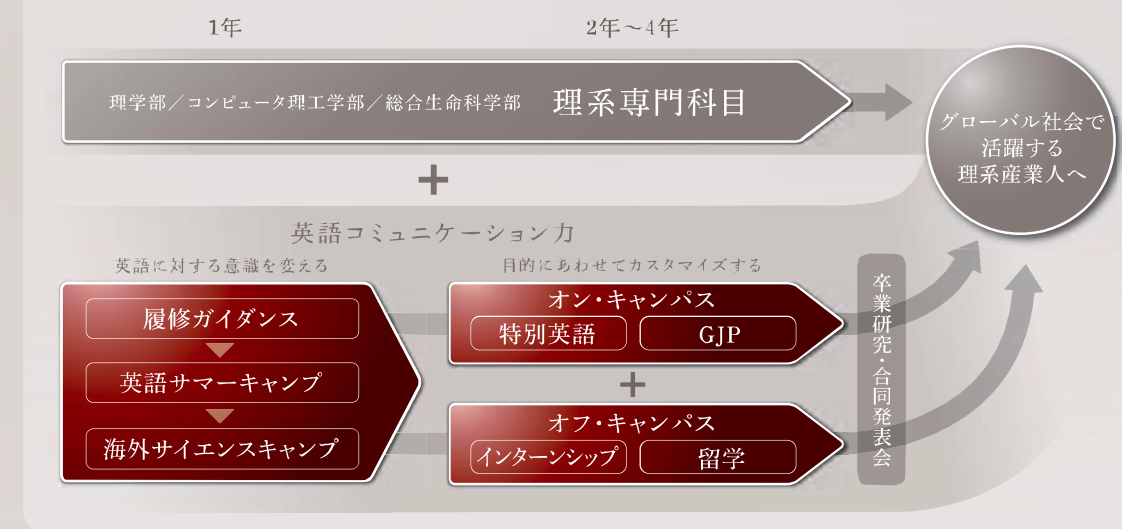
理系3学部と外国語学部のコラボレーションによる新たなプログラムです。キャリア教育や共通教育との連携も強化しています。異なる学びを融合することで、これまでにない画期的な英語プログラムを提供していきます。



グローバル社会で活躍する理系産業人育成の連携体系

コースの概要と特色

各学部の専門的学習とあわせて、英語コミュニケーション力を養う。



基礎から実践まで、レベルや目的にあわせて科目を選択できる。

英語サマーキャンプ

英語漬け合宿で「苦手意識」をなくす

英語でしか話せない合宿型集中英語講座を開催。英語漬けになり、合宿の締めくくり「チーム対抗プレゼン大会」では、伝え、説得し、納得させるプレゼンに挑戦します。

特別英語

理系のための英語をマスターする

「特別英語」では、一般的な英語力を高めるだけでなく、自然科学のテーマを取り上げ、自分の考えを英語で発表し討論する力を養成します。

- アカデミック・ライティング ●サイエンスプレゼンテーション
- ビジネスプレゼンテーション ●アカデミックリーディング・自然系
- 自然系リーディング など

海外サイエンスキャンプ

海外経験を今後の研究に活かす

1年次の春休みを利用して、海外の大学や研究施設・企業での研修を行います。世界の第一線で活躍する人々との交流・対話を通じて、自らの可能性を模索し、研究活動や将来のキャリアへと活かします。

長期留学・インターンシップ

海外で先進的な研究に挑戦する

海外の大学や研究施設への研修など、長期留学を強く推進。海外での就業体験（インターンシップ）の実施も予定しており、グローバルな経験を深める機会を数多く設けます。

GJP(グローバル・ジャパン・プログラム)

英語で専門や教養を学ぶ講義

海外からの留学生と一緒に、歴史・文化・法律・ビジネス・科学・テクノロジーなどを英語で学ぶ授業です。さまざまな国籍の留学生とディスカッションすることで、語学力や異文化理解能力も高めることができます。

- GJP Introductory Seminar ●Ecology and Society
- Environmental Problems ●Japanese Science & Technology など

Support 経済面で、日々の学習で、サポート体制も充実

経済面からも留学を支援

このコースでは、短期留学で1人あたり上限15万円まで航空運賃にあてられる奨学金（選考基準あり）を支給、加えて、日本学生支援機構の「海外留学支援制度（短期派遣）奨学金」にも応募可能です。

一人ひとりに丁寧な指導

学生一人ひとりの学習・研究状況を把握するポートフォリオを導入し、履修指導を行います。また、卒業研究においては、研究室の教員が専門分野を、グローバル担当教職員が英語を指導するダブル指導を実施予定です。

今までにない「学習の場」を提供

答えのない問いにグループワークの実践を行う「雄飛館ラーニングコモンズ」や、異文化理解を深めて生きた語学力を身に付ける「グローバル・ビレッジ（仮称）」など、学生同士が集まり、主体的に学ぶ、新しい学びの場を提供します。

さらに詳しい情報をウェブサイトにて公開中 URL <http://www.kyoto-su.ac.jp/department/gsc/> グローバル・サイエンス・コース 検索